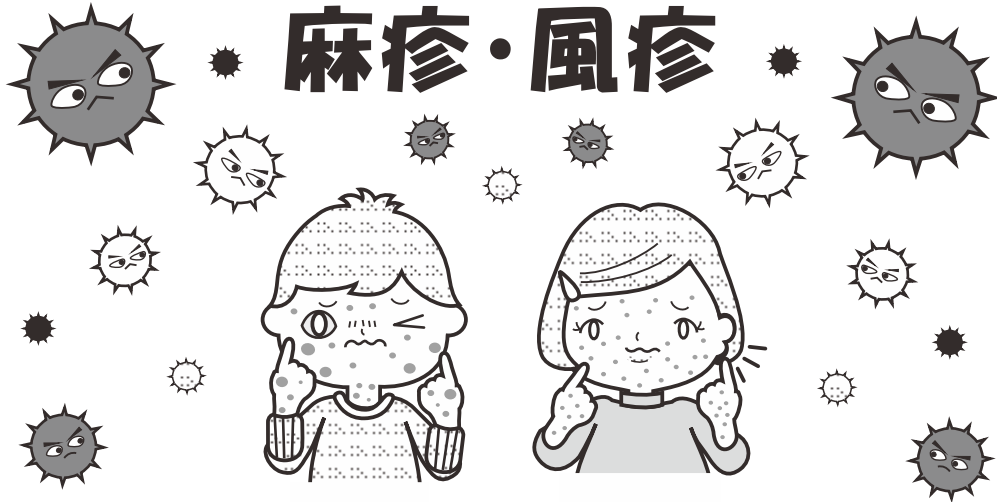


子どもの病気②

麻疹・風疹



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ 

かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2019 3月号

ましん 麻疹(はしか)

麻疹ウイルスによる感染症で、一般に「はしか」と呼ばれますが、正式な病名は「麻疹」です。潜伏期間は10~12日で、感染力が非常に強く、空気感染で広がります。一度感染すると、終生免疫を得られます。

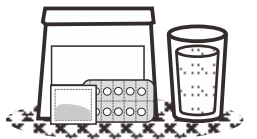
【主な症状】

- カタル期 (2日~4日間)
 - ・38度程度の発熱
 - ・咳、鼻水、目の充血
 - ・口内に白い斑点(コプリック斑)
 - ・倦怠感
 - ・不機嫌
 - ・下痢、腹痛
- 発疹期 (3日~5日間)
 - ・赤く細かい発疹
 - ・39度以上の高熱
- 回復期
発疹が退色し、しばらくは色素沈着が残る



【治療方法】

高熱に対しては解熱剤、咳を抑える鎮咳薬、痰を切りやすくする去痰薬・気管支拡張薬、鼻水を抑える抗ヒスタミン薬などを使います。合併症を起こした際には抗菌薬を使います。



【予防接種について】

MR7ワクチン(麻疹・風疹混合): 定期予防接種の対象

接種年齢：1歳以上

接種間隔・回数：1歳と小学校入学前の2回

<目安>1回目：生後12ヶ月～24ヶ月

2回目：5歳～7歳



【合併症】

・肺炎

麻疹の合併症で最も多く発症します。ウイルス性、細菌性、巨細胞性の3種あり、解熱しない場合は、細菌性が考えられます。また、重症化すると死亡することもあります。

・中耳炎

細菌の二次感染によって起こります。肺炎と並んで頻度が多く、乳幼児は症状に気づきにくいので、注意が必要です。

・脳炎、脳症

発症する確率は低いものの、肺炎とともに死因のひとつとされています。

他にも、喉が腫れて呼吸がしにくくなるクレープ症候群などがあります。

【家庭でのケア】

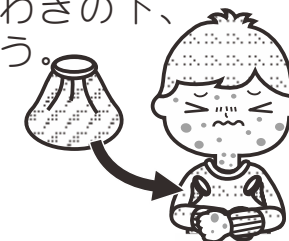
・消化の良いものを摂る

こまめな水分補給と、おかゆ、スープ、プリン、ゼリー、アイス、果物ジュースなど喉ごしが良く消化の良いものを摂りましょう。



・高熱に注意する

薬が処方されている場合は医師の指示通りに使用しましょう。高熱時は、首の周りやわきの下、足の付け根を冷やすと良いでしょう。



・症状が落ち着くまでは入浴を避ける

入浴は咳や熱、発疹が落ち着いてからにしましょう。

・安静にする

症状が落ち着いても免疫力が落ちているので、人混みなどは避け、無理をしないことが大切です。

【登園・登校について】

解熱した後3日を経過するまでは登園・登校はできません。

麻疹かなと思ったら...

- ①病院にまず電話をして麻疹かもしれないことを伝え、病院の指示に従う
- ②自家用車で病院を受診する
 - ・公共交通機関は使わない（自家用車が無い場合は、ワクチン2回接種済みの方や中高年の方に送迎してもらう）
 - ・マスクを着用する
 - ・人が集まる場所には行かない

ふうしん
風疹

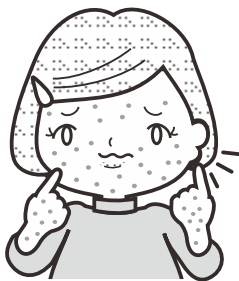
～風疹～

風疹ウイルスによる感染症です。潜伏期間は2週間から3週間で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。一度感染すると、終生免疫を得られます。

風疹は「麻疹」に症状が似ているので、「三日ばしか」と呼ばれることもありますが、麻疹と風疹はまったく別の病気です。麻疹のように色素沈着や皮がむけることはありません。

【主な症状】

- ・赤く細かい発疹
ほぼ同じ大きさで全身に現れ、3～5日で消える
- ・発熱(37度程度)
発疹と同時期に起こることが多い
- ・リンパ節が腫れる(特に首と後頭部)
- ・目の充血



【治療方法】

基本的には対症療法で、高熱の場合は解熱剤を使います。



【予防接種について】

麻疹同様、MRワクチンを接種します。



【合併症】

・血小板減少性紫斑病

血小板が減少することで出血が止まりにくくなり、点状出血や紫斑など、全身にさまざまな大きさの出血斑(あざのようなもの)が現れます。ほとんどの場合は急性で、自然に治癒します。

・脳炎

意識障害やけいれんを起こします。異常に興奮するなど、行動障害として現れることもあります。発症率は少ないですが、後遺症が残ったり、死亡例も報告されています。

・関節炎

関節が炎症を起こし、痛みを伴います。風疹感染者の5～30%に現れる合併症で、成人に多く現れます。

先天性風疹症候群

妊娠初期の妊婦さんが感染するとお腹の赤ちゃんにも影響を及ぼします。(詳しくは7ページで紹介)



【家庭でのケア】

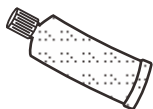
・熱を和らげる

首の周りやわきの下、足の付け根などを冷やしましょう。あまりにも子どもがぐったりしている場合は、発熱が原因ではない可能性もあるので病院を受診しましょう。



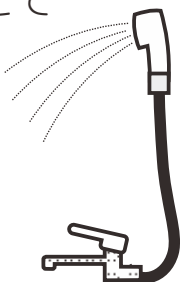
・肌を傷つけない

発疹が消えかける時期にかゆみが強くなるため、かきむしって肌を傷つけないように注意しましょう。かゆみ止めを処方してもらったり、かゆい部分は冷やしましょう。



・肌を清潔にする

元気があり、38度以下であれば入浴可能です。かゆみがある時には、体を温めることでかゆみが増すので湯船を避け、汗をかいた場合には、ぬるめのシャワーを浴びましょう。



【登園・登校について】

発疹が消えるまでは、登園・登校はできません。
※ただし、病状によって医師が感染の恐れがないと認められた時は、この限りではありません。

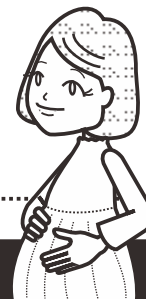
大人もMRワクチンの接種を検討しましょう



近年、麻疹・風疹は成人で流行しています。2013年や2018年には、定期接種の機会がなかった30代から50代の男性を中心に風疹の感染が拡大しました。

風疹に妊娠20週以内の妊婦さんが感染すると、生まれてくる赤ちゃんが先天性風疹症候群（難聴・心臓の病気・白内障など）になる可能性があります。

生まれてくる赤ちゃんを守るために、ワクチンの接種を受け、感染の流行を起こさないことが重要になります。



このような方は、接種の検討を！

- ワクチンが未接種の方・風疹にかかったことがない方・風疹の抗体の値が低い方
- 妊婦さんに接する機会の多い方
- 妊娠を希望する女性（接種後2か月は避妊が必要）
- 子育て世代の男女が働く職場の方

※厚生労働省は、2019年から2021年度末までの期間、現在39歳から56歳の男性を対象に、抗体検査とワクチン接種を原則無料で実施すると発表しました。

